

A R T ?

Pre-Resume For Demo-Presentation

Morimura / Kawamura seminar 2008

**Edited by Yuta Komaguchi
Atsushi Takeda
Yuta Mizuno
Youichi Hayashi**

INTRO

今回取り上げるのは「芸術とは何か？」という漠然としたテーマですが、議論を活性化するためにはある程度の知識が必要です。そこで、プレジюмеで必要な用語の解説、宿題の提示をしたいと思います。

KEYWORDS

【前衛(アヴァンギャルド)】

→avant-garde(アバンギャルド: フランス語)の和訳。本来は軍事用語で「最前線」の意。主に保守的な姿勢や資本主義、旧時代の芸術などへの攻撃や変革のために、時代の先端に立とうとするような立場・姿勢のことを指している。思想、文学、美術、政治など、様々な分野で用いられる。

【パラダイム】

→一般用語として、「規範」「範例」の意味に用いられる。もともとはアメリカの科学史家、科学哲学者であるトーマス・クーンが提唱したパラダイム概念のことであるが、過度に拡大解釈された結果、「支配的な解釈」の意味合いで語られることが多い。

【後期印象派(ポスト印象派)】

→19世紀末、フランスを中心に展開した前衛的画家を指す呼称。彼らは印象派を継承しつつも、従来の客観的描写を捨て、主観的な表現の追究を試みた。また、形態、色彩、思想においては20世紀初期の芸術運動に影響を与えた。

<主要人物>

ポール・セザンヌ(1839-1906)

『首吊りの家』

ポール・ゴーギャン(1848-1903)

『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ(1853-90)

『ひまわり』

【野獣派(フォーヴィスム)】

→20 世紀初頭の絵画運動。彼らは、ルネッサンス以降の伝統である写実主義と決別し、芸術家の主観的な感覚を表現した。野獣(フォーヴ)と呼ばれるのも、彼らの主観的作品の色彩、筆触が作者独特のものであったからである。

<主要人物>

- アンリ・マティス(1869-1954)
『緑のすじのあるマティス夫人の肖像』
- アンドレ・ドラン(1880-1954)
『テーブル』
- モーリス・ド・ヴラマンク(1876-1958)
『赤い木のある風景』

【立体派(キュビズム)】

→20 世紀初頭においてセザンヌの影響を受けたパブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックが創始した美術。それまでの絵画は一つの視点から描かれていたのに対し、複数の視点から見た対象を、一つの画面に描き出すことにより立体的な物全体を平面上に表現しようとする試みがなされた。野獣派を色彩の革命とするならば立体派は形態の革命であるとされている。

<主要人物>

- パブロ・ピカソ(1881-1973)
『アヴィニョンの娘たち』
- ジョルジュ・ブラック(1882-1963)
『ポルトガル人』

【未来派】

→1909 年、イタリアのミラノで始まった芸術運動。中心となったのは詩人のマリネッティで、他にボッチョーニ、ルッソロ、バッラなど多くの芸術家が賛同し運動に加わった。美術、音楽、文学、演劇、建築、映画、写真などあらゆる分野における、近代における伝統的枠組みの破壊と機械への美的崇拜、文明の最先端を目指した。

<主要人物>

- フィリッポ・トンマーゾ・マリネッティ(1876-1944)
『未来派宣言』(1909)
- ルイジ・ルッソロ(1885-1947)
『騒音芸術』

【ダダイズム】

→ダダイズムは第一次世界対戦による悲劇、混乱を発端として各地に広まった20世紀を代表する芸術思想・運動であり、既成の秩序や価値観、常識といったものを否定、攻撃、破壊したことが大きな特徴である。ヨーロッパの地方やニューヨークにおいて同時多発的かつ相互に影響を受けながら発生し多くの芸術家が関わることとなるが、『ダダ宣言』を発表したトリスタン・ツァラとアンドレ・ブルトンの対立、ブルトン派の「シュルレアリスム」へ移行したことなどにより勢いを失った。

<主要人物>

トリスタン・ツァラ(1896-1963)

『ダダ宣言』(1919)

ギヨーム・アポリネール(1880-1918)

『ミラボー橋』

マン・レイ(1890-1976)

『イジドール・デュカスの謎』

【シュルレアリスム】

→1920年代のパリにおいて、ダダイズムによる否定と破壊の精神を継承して起こった芸術運動。フロイトの精神分析の影響を受け、夢、無意識、偶然といった、理性や意識が介在できないものに注目し、それらを表現しようと試みた。『シュルレアリスム宣言』を発表したアンドレ・ブルトンをはじめとして文学者が多かったが、文学的技法が後の造形芸術にも影響を及ぼしている。なお、ダダイズムとは、既成の秩序や常識に反抗するという点で連続性を持っている。

<主要人物>

アンドレ・ブルトン(1896-1966)

『シュルレアリスム宣言』(1924)

ルネ・マグリット(1898-1967)

『光の帝国』

アントナン・アルトー(1896-1948)

『神経の秤』

マックス・エルンスト(1891-1976)

『セレベスの象』

HOMEWORK

1. 芸術とは何か？
2. あなたの好きな芸術はどのようなものか？具体的にはどの作品か？

以上の2つの問いに対する自分なりの答えとその理由を必ず用意してきてください。デモンストレーションの際に発表していただきます。2に関しては事前にその作者、作品名を駒口に送ってください。

ATTENTION

今回は「デモンストレーション」という形式ですが、議論はゼミ生全員で作っていくものです。私達も議論の活性化に努めますので、聴く側も積極的に参加することを心がけてください。そのために、宿題として課した質問2つに関してはできる限り考えてきてください。

デモンストレーション発表担当

駒口 竹田 水野 林